



取材のお願い

公益財団法人古川知足会古川美術館

古川美術館開館30周年記念特別展Collector's exhibition2

「印象派とエコール・ド・パリ」

2021年9月10日（金）～12月19日（日）

展覧会のご案内

各位

平素は格別のご厚情を賜りありがとうございます。

この度、古川美術館開館30周年を記念し、アートコレクターが所蔵する秘蔵コレクションを一堂に展覧するCollector's exhibition2「印象派とエコール・ド・パリ」を古川美術館にて開催します。

モネ、ルノワール、ゴッホ、ゴーギャンなど印象派からエコール・ド・パリの作家や印象派時代のムンク。そしてウィリアム・ターナーの風景画は日本では初公開となります。

是非とも貴媒体にてご紹介いただきたく、お願い申し上げます。

Topic1 古川美術館の歴史

愛知県名古屋市にある古川美術館は、初代館長 故古川爲三郎が長年にわたって収集し大切にしていた美術品を、「私蔵することなく広く皆様に楽しんでいただきたい」という思いからその寄付を受け、平成3年11月に名古屋市千種区唯一の美術館として開館いたしました。初代館長の故古川爲三郎

(1890-1993)は、芸術を愛し、戦前から美術工芸品の収集を行っておりました。そして、長年にわたって集めた美術品を私蔵することなく、広く一般の方々に公開して美術に親しんでいただくという趣旨で、昭和62年9月に財団法人古川会を設立しました。平成元年3月からは、名古屋市中区に財団法人古川会サロン&ギャラリーを開設し、美術館準備室として約2年間コレクションの展示公開を行い、同年、愛知県博物館協会へ加盟しました。平成3年4月には、現在の名古屋市千種区に古川美術館を開館し本格的な展示を始め、同年10月には愛知県教育委員会より登録博物館としての許可を受け、平成23年8月に公益財団法人への移行認定を受け、同時に、名称を公益財団法人古川知足会へ変更いたしました。

そして。ご来館者の皆様、地域の皆様に支えられ、ようやく開館30周年を迎えることができました。

それを記念し、古川美術館史上初となる大規模な印象派展を開催します。

しかも展示作品は美術収集家が個人観賞用に収集した秘蔵コレクション。人の眼に触れずに大切に収蔵されてきた珠玉の一品を紹介します。

Topic2 Collector's exhibition2とは

古川美術館のコレクションは初代館長 古川爲三郎の個人コレクションから始まりました。個人コレクターの醍醐味は珠玉の名画を自身の趣向で蒐集し、時を問わず鑑賞できるなど様々にあります。その反面、公共の場で鑑賞する機会が非常に少ないことも挙げられます。しかしこうした秘蔵コレクションが現在の私共のような私設美術館の礎となり、後世に美術を伝えていく役割を担っているのも事実です。そこでこのCollector's exhibitionシリーズでは美術収集家の皆様のご協力を得て、普段目にするのできない美術品を一堂にご紹介します。美術品を次世代へ。そして美しさや感動は人から人へ。時を重ねても色あせない美術品を味わう、それがこのシリーズの醍醐味です。

Topic3 全体的な見どころ

芸術の都・パリに19世紀後半に花開いた印象派。印象派の画家たちは明るい色彩を用いて光をあびた美しい世界を作品に表現してきました。それは宗教画や神話を重んじ、絵画化してきた西洋にとって美術史上、最も重要なターニングポイント、まさに近代絵画の幕開けでした。その背景にはカメラの発明や絵具の進歩などの様々な要因があり、画家は見たものを描くではなく、見たものをどう描くかという視線に代わっていきます。そして1880年代以降各画家の個性の進展と円熟に従い、モネやルノワールなどの名立たる画家が誕生しました。



画像1：クロード・モネ「霧の中の太陽」1904年



印象派の出現以降、世界中の芸術家たちを惹きつけた中心地はパリでした。世界各国から多くの芸術家たちが集まり、個性的な具象絵画を創造します。彼らによって形成された緊密なコミュニティは新しい芸術が生まれる重要な土壌となり、今日、エコール・ド・パリ（パリ派）として知られています。彼らは自由な生き方でそれぞれの出身国の民族性を色濃く反映させた芸術を発表し、フランス美術の次のステージが幕開けしました。本展は、こうした西洋美術史の中でも最も刺激的で前衛的でもあった印象派とエコール・ド・パリを展覧します。

画像2：ピエール＝オーギュスト・ルノワール「モンマルトルの庭の娘たち」1891～1905年

Topic 4 日本初公開！！



画像3

ウィリアム・ターナー

「Fonthillに建設中のゴシック様式の修道院（午後）の眺め」
1800年頃

なんといっても見逃せない作品が、イギリスロマン主義のウィリアムターナーの日本初となる作品だ。ターナーは印象派の前身に位置し、バルビゾン派の派生より生まれた印象派とは離れた存在。ですが、描かれている風景は印象派の画家たちと同様に、ただ描くだけではない画家の崇高な視線を感じることができる。絵具の使い方や空気感のとらえ方に共通するところを見ることができるはずだ。

Topic 5 ゴッホとゴーギャンの同時代の作品



画像4 (左)

フィンセント・ファン・ゴッホ

「ボートの浮かぶセーヌ川」1887年



画像5 (右)

ポール・ゴーギャン「家鴨のいる池」1888年

「耳切事件」でおなじみのゴッホとゴーギャン。この二人が会う前の同時期に描かれた作品がこれだ！二人が自分の画風を確立する直前で模索する作家の姿が想像できる。

Topic 6 エコール・ド・パリ

「芸術の太陽はパリにしか輝いていない」とシャガールが憧れたように、印象派の出現以降、世界中の芸術家たちを惹きつけたパリ。第一次世界大戦直前にもまして、世界各国から多くの芸術家たちが集まり、個性的な具象絵画を創造させた。彼らによって形成された緊密なコミュニティは新しい芸術が生まれる重要な土壌となりエコール・ド・パリ（パリ派）が誕生する。それは特定の様式や流派にとらわれない個性的な集団であった。当時、パリには様々な国から、画家や彫刻家、画商、評論家などが集まり、盛んに芸術運動も起きていたが、パリ派の芸術家たちは、そうした共通する政治思想を持つことや特定の芸術運動に加わることなく、自由な生き方でそれぞれの出身国の民族性を色濃く反映させた芸術を発表し、フランス美術の次のステージが幕開けしたのである。

Topic 7 あの人気作家の作品を！



画像6

アンリ・ジュアン・ルソー

「アフリカ雄ライオンと雌ライオンのいる南国の小路」

ピエール＝オーギュスト・ルノワール

クロード・モネ

フィンセント・ファン・ゴッホ

マルク・シャガール

アメデオ・モディリアーニ

モーリス・ユトリロ

レオナルド・フジタ

アルフレッド・シスレー

カミュール・ピサロ

ポール・ゴーギャン

モイズ・キスリング

アンリ・ルソー

マリー・ローランサン

と豪華なラインナップ！！

Topic 8 コロナ禍での美術館の楽しみかた

「学芸員による ギャラリートーク上映会」

※団体の申し込みの場合は、
上記に限らず放映

日時 | 毎週火曜日と土曜日
時間 | 11:00~/14:00~(約30分)
参加費 | 無料 (要入館料)
定員 | 12名程度
申込 | 事前の電話申込と当日の整理券配布の併用

2021年度秋期連続文化講座

リモート版

「絵画の多様性を考える 一描かれた女性と女性画家」

1回目 | 9月24日(金)「印象派の女性画家と描かれた女性たち」
2回目 | 10月22日(金)「日本美術の中の女性たち一描かれた女性と描いた女性」
3回目 | 11月19日(金)「困難な時代における女性画家たち」

時間 | 各日13:30~15:00

講師 | 吉良 智子氏 (美術史家 京都芸術大学大学院非常勤講師)

参加費 | 各回1,000円(税込)

申込 | Webまたはお電話・古川美術館フロントにて ※Microsoft Teamsでの配信となります。

広報使用画像 メールにてお問合せください。mail : n_hayashi@furukawa-museum.or.jp (林 奈美恵)



クロード・モネ「霧の中の太陽」1904年 個人蔵

展覧会情報

古川美術館開館30周年記念特別展

Collector's exhibition2「印象派とエコール・ド・パリ」

2021年9月10日(金)~12月19日(日) 午前10時~午後5時 (入館は午後4時30分まで)

休館日: 月曜日 (但し、9/20は開館9/21は休館)

会場: 古川美術館

主催: 公益財団法人古川知足会

特別協賛: 東海東京証券株式会社

後援: 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、中日新聞社 CBCテレビ

スターキャット・ケーブルネットワーク(株)

観覧料: 大人1,200円 高・大学生600円 中学生以下無料

【お問い合わせ】

公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 爲三郎記念館

電話 052-763-1991 FAX 052-763-1994(学芸課)

〒464-0066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地

担当学芸員 林奈美恵 (n_hayashi@furukawa-museum.or.jp)